

平成28年度道德教育実践研究事業実績報告書

1 研究指定校の概要

指定校名	徳島県立池田高等学校定時制課程
校長氏名	結城 孝典
所在地	徳島県三好市池田町ウエノ 2834
電話番号	088 -72-1280
U R L	http://ikeda-phs.tokushima-ec.ed.jp/

2 研究課題

(1) 研究主題

「 人間愛，自然愛，地域愛 ～ 豊かな心を育てる道德教育 ～ 」

(2) 設定理由

本校は県西部に位置する夜間定時制高校である。全校生徒は4学年合わせて18名と非常に規模が小さく，多くの人々とコミュニケーションを図る機会が少ない。本校の生徒たちは，昨年度の研究結果からも分かるように，自尊感情や自己肯定感が低い。この根本的な原因の一つとして，人に対する愛情や信頼の欠如が考えられる。過去の経験が心の傷として残っている者も存在する中で，これらの改善は容易なものではない。しかし，他者から認められ，認めることができる体験，自然の雄大さや崇高さを実感できる体験，社会から理解され，必要とされている充実感を実感できる体験等，多様な道德的価値を含む体験を通して，少しでも生徒の絶たれた絆を取り戻したいと考えた。そして，昨年度伸ばしきることができなかった基本的生活習慣，礼儀やマナー，規範意識や倫理観，地域社会への関心，社会性や公共の精神，地域の伝統や文化を誇りに思う郷土愛，地域社会の一員としての自覚等も含めた，豊かな心をより一層生徒に育むため本主題を設定した。



3 研究の概要及び特色

(概 要)

「人とのつながり」から得られる愛情の実感や、他者から認められ、他者を認めることができる体験。「自然とのつながり」から得られる自然の雄大さや崇高さを実感できる体験。「地域社会とのつながり」から得られる信頼や、社会から理解され、必要とされている充実感を実感できる体験。「人間愛」、「自然愛」、「地域愛」を実感できるこれらの体験を地域社会と連携しながら行う。これらの体験を通して、生徒たちの自尊感情や自己肯定感の醸成を図り、人間としての生き方や在り方についての考えを深め、豊かな心を育む。

(特 色)

研究テーマを「人間愛の育成」「自然愛の育成」「地域愛の育成」の3つから構成した。

①人間愛の育成

昨年度の結果からも分かるように、基本的生活習慣が確立していない生徒が多いことが本校の課題のひとつとしてあげられる。そのため、心身の健康の増進を図るとともに、自己の命を大切にする態度を育てるための働きかけを継続して行った。また、自らを律しつつも、他者とともに協調し、他者を思いやれる社会性を身につけさせるために必要な言葉遣いや礼儀、モラルやマナー、コミュニケーションスキル等の向上を図った。次に、本校の伝統といえる、徳島県高等学校定時制通信制教育連盟美術作品展（以下、定通連美術作品展）に出品するための作品制作を通して、生徒自身が自己と向き合うとともに自分の思いを込めた作品制作による自己探求をうながした。また、定通連美術作品展への出展を通して、他者からの肯定的評価を受けることによって得られる充実感や満足感から自信を向上させるようにした。さらに、校内での絵本の読み聞かせや、保育実習による幼児・児童とのふれあいを通して、温かい人間愛や、命を大切にする心の醸成を図った。

これらの他者を認め、他者から認められる経験の積み重ねを通して、他の人々への思いやりの心を育むとともに、自尊感情や自己肯定感の育成を図った。



【健康に関する掲示物】



【定通連美術作品展】



【絵本の読み聞かせ】

②自然愛の育成

本校は、北には吉野川や阿讃山脈、南には四国山地という豊かな自然に囲まれた場所にある。徳島の水資源について学んだり、地域のゴミ拾いや地域施設の清掃活動、使用済み食用油の回収活動などの環境保全活動を通して、この恵まれた自然環境に感謝し、自然を愛護する心の育成を目指した。また、グリーンカーテンを設置し、節電・節水に貢献するとともに、自然の持つ美しさに感動する心や自然への興味・関心の向上を促した。さらに、蚕を育てることで、生命の大切さを理解させ、生命を尊重する心の育成を図った。

これらの取組を通して、人間も自然の中で生かされている存在であることを知るとともに、自然や生命を尊重する心の育成を図った。



【清掃活動】



【グリーンカーテンづくり】



【蚕の飼育】

③地域愛の育成

本校は、夜間活動が可能であり、少人数でまとまりある活動ができるという特色を生かして、平成 22 年度に「池定・地域まもり隊」を全校生徒で結成し、地域のことを学ぶとともに、地域貢献活動を継続して行っている。本年度もこの活動の一環として、専門家の講話や地域施設の見学等を通じた地域の伝統や文化、風土等についての学習を行い、地域の自然・文化・人の魅力に対する認識を深化させるとともに、郷土を愛する心を醸成しようとした。また、地域警察署との合同パトロールや、ものづくりによる被災地支援活動などを通して、地域活動の達成感や充実感等を得させるようにした。

これらの取組を通して、社会性や郷土愛、地域社会の一員としての自覚や公共の精神のさらなる育成とともに、生徒自身の生き方や在り方についても考えを深めた。



【地域を知る学習】



【防犯パトロール】



【被災地支援うちわづくり】

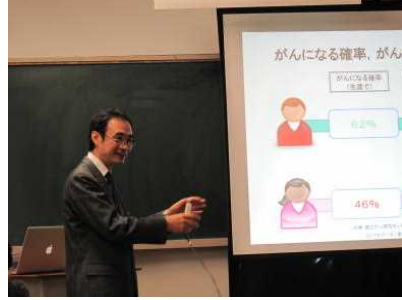
4 研究の成果

①人間愛の育成

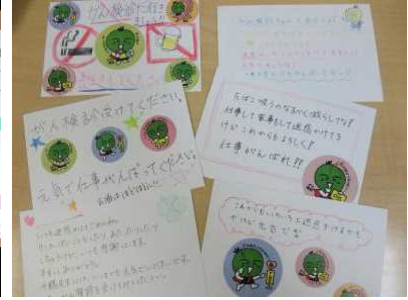
今年度も、生徒たちが健康的な食生活や望ましい生活習慣を身につけるため、夏期休業中に健康管理シートを活用して、生徒に自分自身の日頃の生活習慣を振り返らせた。まず、食生活や生活習慣を改善するための目標を立てさせ、実行の有無を記録させるようにした。また、毎学期の始まりに体重測定を実施し、体重の増減や肥満度を調査し、その結果を養護助教諭が生徒一人ひとりにフィードバックし、適正体重や生活リズムのアドバイス、思春期の身体に関するカウンセリングなど、健康に関する個別的な指導を実施した。新たに導入した 12 月の健康教育講演会では、県立三好病院医院長の住友正幸氏、NPO 法人 AWA がん対策募金理事の川崎陽二氏をお招きし、たばこの害や怖さ、がんと関係性など、がんについての正しい知識を身につけるとともに、がんの予防や、早期発見・検診の大切さについて学習した。また、がん検診を訴えるメッセージカードを作成し、大切な人へ向けて送付した。生徒たちは、がんと向き合う人々とふれあうことで、自他の健康と命の大切さについて気づき、自己の在り方や生き方についても考えたようである。



【健康指導】



【健康教育講演会】



【メッセージカード】

同じく 12 月に、これからの変化の激しい社会で必要とされる、逞しく生きるための健康や体力を生徒に身につけるために、体力増進講座を実施した。スタジオ FUN 主宰土井逸子氏をお招きし、誰もが簡単に行える体力増進エクササイズやストレッチについて学んだ。運動する機会があまりなかった生徒たちも、この講座を通して、心と身体をリフレッシュさせるとともに、運動することの楽しさや大切さを実感したようである。

今年度も言葉遣いや礼儀、モラルやマナー、コミュニケーションスキルなどの向上を目指し、教職員の共通認識のもと継続して指導を行うとともに、新たに 12 月と 1 月にマナーアドバイザーの浪越あゆみ氏をお招きし、ビジネスマナー教室を実施した。正しいあいさつや言葉遣い、面接時の注意など実践的なマナーについて学んだ。生徒たちは、正しいあいさつや言葉遣いが、年齢や立場、性別、性格、価値観等の違う人々と良好な人間関係を築くために有効であることを理解したようである。また、少しずつではあるが、時と場に応じた適切な言動をとるように意識するようになってきたと感じる。



【体力増進講座】



【ビジネスマナー教室①】



【ビジネスマナー教室②】

本校の伝統といえる、定通連美術作品展に出展するために、書道・美術・工芸・写真・手芸の各部門に分かれて作品を制作した。特に書道と美術においては、今年度も地域在住の芸術家である竹内政美氏（書道）と横山篤志氏（美術）をお招きして、作品づくりに取り組んだ。自分の思いを込めた作品を納得できるまで制作するという経験により、生徒たちは自己と向き合うことができたと思われる。また、制作期間が短い中で心が折れそうになりながら、諦めることなく作品を完成させたことは、達成感を得る貴重な機会になったと考える。さらに、共同作品に関しては、異年齢の生徒たちが協力しながら一つの作品を作り上げることで、他者と協調することの大切さを学んだようである。制作した作品のうち、写真部門で特選、書道部門で準特選、工芸部門で準特選、手芸部門で準特選を受賞した。また、11 月には本校の文化祭である「学燈祭」、1 月には地域のギャラリーでの本校独自の美術作品展でも、これらの作品を、日頃の学習の成果とともに展示し、全日制の教職員や生徒たち、保護者や一般の方にも公開した。自分の作品が他者にも認められたことによる充実感や満足感は、目には見えないが自信につながることができたと思われる。



〔美術作品制作（書道）〕



〔美術作品制作（美術）〕



〔地域での美術作品展及び学習展〕



『渚にて語り合う二人』（写真）



『誠心』全紙（書道）



『延寿』半切 1/2（書道）



『幸せいっぱい池田エプロンシアター』（手芸）



『池田町内の守護神』（絵画）



『徳島県産のロボットです。』（工芸）

日頃の授業やホームルームにおいて、教員が絵本の読み聞かせを実施した。絵本の読み聞かせを行うことにより、想像力や感受性を向上させ、豊かな人間性を育もうとした。また、開校記念行事では専門家をお招きし、プロの絵本の読み聞かせを聞くとともに、生徒自身も自らが感動した絵本を持参して読み聞かせを行った。その際、声の抑揚をつけることの大切さなど、表現方法について指導していただいた。そして、6月、11月、2月には、地域の池田第一保育所を訪れ、絵本の読み聞かせの練習の成果を生かして保育実習を実施し、着替えや食事の補助なども体験した。最初は交流することに恥ずかしがっていた生徒たちも回を重ねるごとに慣れ、ホールで子どもたち全体に向けたエプロンシアターや絵本の読み聞かせを行うなど、この取組を通して、生徒たちは自己に自信が付き始め、思いやりをもって子どもに接することの大切さや、働くことへの責任感を実感したようである。

12月に交通事故被害者遺族の方をお招きし、命の大切さを学ぶ教室を実施した。飲酒運転の交通事故の被害により、突然愛する息子を奪われた悲しみや怒り、そのストレスにより心身の不調に今も悩まされていることなど、遺族の受けた様々な痛みや思いを聞き、たったひとつしかない命の重さや尊さについて考えた。講演会の後に書いた生徒の感想に、「自分や周りの人の命を大切にすることが、自分の知らない誰かの命を大切にすることにもなると思った」というものがあり、この講演会を通して、自分の命はもちろん他者の命も大切しなければならぬと実感できたようである。



【保育実習①】



【保育実習②】



【命の大切さを学ぶ授業】

②自然愛の育成

学校を取り巻く自然環境の実態・現状を分析し、学校における節電・ゴミ分別・リサイクル活動に取り組むとともに、その取組を地域に広げ、地域に出向いて環境保全・環境美化・環境学習等の活動を行った。校内では、電力や水道等の使用量を調査し、節電・節水・省エネルギーを心がけ、三好市が民間企業とともに実施している廃食用油の再生のための回収作業を支援するために、廃食用油の回収を実施した。6月には、徳島大学理工学部の上月康則教授をお招きし、「地域と河川」というテーマで水の循環や徳島県の河川などの水環境の特徴と課題について学習した。7月には、地域住民の方々と合同で、二班に分かれて地域の神社（諏訪神社・杉尾神社）の清掃を行った。生徒からは「作業は大変だけど、きれいになると気持ちがいい。少しでも地域の役に立てたら」という感想も得られた。地域の多くの方が参加してくださり、神社の清掃だけではなく、地域の方とも交流することができ、本校の教育活動や生徒について理解を深めてもらう機会にもなった。

昨年度から行っているグリーンカーテン制作であるが、今年度は生命力の強いアサガオを用いた。節電を目指すとともに、アサガオの抽出液を用いた酸性雨調査など、環境学習も行った。また、授業の一環として、蚕の飼育を行った。これらの取組を通して、生徒たちは人間も自然の中で生かされている存在であることを理解し、生き物や土いじりに抵抗があった生徒も、自然や生命を大切にするようになってきたようである。



【ゴミ分別調査】



【廃食用油リサイクル支援】



【環境学習】

③地域愛の育成

地域の伝統や文化、風土等、郷土に関する事柄について学び、郷土への関心や郷土愛を生徒に育むため、地域のことについて学ぶ「地域を知る学習」を実施した。6月には、「地域と書道」というテーマで、四国大学文学部の太田剛教授をお招きし、石碑資料の映像をもとに、徳島県・淡路島を中心とした江戸時代の書道文化の成長過程について学ぶとともに、甲骨文字の臨書制作も行った。8月には、「地域と消防」というテーマで、池田消防署を訪れ、ホースの巻きつけ作業のほか、消火活動や救助活動を体験した。生徒たちは、常に危険と隣り合わせながら、地域住民の命を守る仕事を行っている消防士の話聞いた

り、実際に体験したことによって、働くことの意義を理解したようである。9月には「地域と歴史」というテーマで、地域の歴史研究に携わっている下川清氏をお招きし、池田町の遺跡や地名の由来などについて学習した。これらの地域社会に関する学習で学んだ内容を全体で共有し、さらに理解を深めるために10月には校内研究発表会を開催した。



【地域を知る学習①】



【地域を知る学習②】



【校内研究発表会】

12月には、現在、地域の後継者が少なくなっている実態を踏まえ、池田町内の医家神社で2年に1回行われる大しめ縄づくりに参加した。地域の方の指導のもと、わらの不要な部分を取り除く「しびとり作業」や、わらを編んで縄にしていく作業などを経験した。作業の中には高度な技術や長年の経験が必要なものもあり、なかなかうまくできない場面もあった。生徒からは「コツが分からず、教えてもらってようやく完成したので達成感がある。また地域の人と一緒につくりたい」という感想が得られた。このように、生徒たちが地域の伝統行事や伝統技術について学び、地域の伝統に触れることで、地域とのつながりを実感し、郷土や自分自身に誇りを持つとともに、このような高度な技術を持った地域の高齢者に尊敬の念を抱き、地域の伝統・文化を継承していこうとする意欲や態度を身に付ける機会になったようである。11月に行った学燈祭では、地域社会を中心に活躍するシンガーソングライターと地域のダンススタジオを招き、郷土をテーマにした歌やダンスを実施した。人前に出るのが苦手な生徒たちだが、今回は自らダンスを踊りたいと申し出るなど、自分自身に自信を持つとともに、郷土愛を育む機会になったようである。

同じく12月には、地域の警察署と合同の防犯パトロール活動や、振り込め詐欺防止の啓発活動の実施し、地域の安全に寄与した。このような活動を通して、自分たちが地域のために貢献できているという自信と誇りや、地域の一員としての自覚が芽生えてきた。

本校は、美術作品制作の経験を生かし「防災うちわ」の作成を行い、被災地と交流を行っている。本年度は、熊本大地震の発生を受け、熊本地震復興支援阿波踊りに活用するため、熊本と徳島の絆が一層深まるように願いを込めたうちわを作成し、熊本県上益城郡益城町の施設に送付した。また、1月には、実際に益城町の小学校や福祉施設への慰問などを行っているシンガーソングライターをお招きし、被災直後の益城町の様子、ボランティア活動の体験談、被災地支援ソングなどを聴いた。以下、アンケートの結果である。



【大しめ縄作り】



【学燈祭】

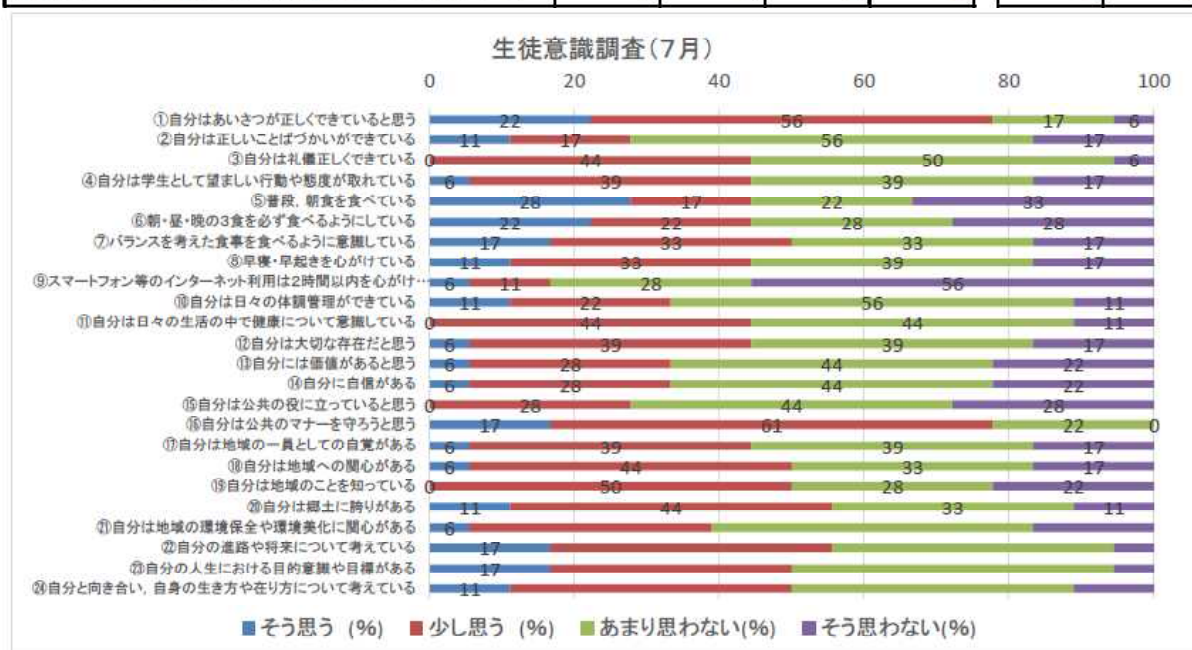


【復興支援うちわづくり】

平成28年度 生徒意識調査(1学期)の結果

対象:全学年(18名)(男子:10 女子:8)

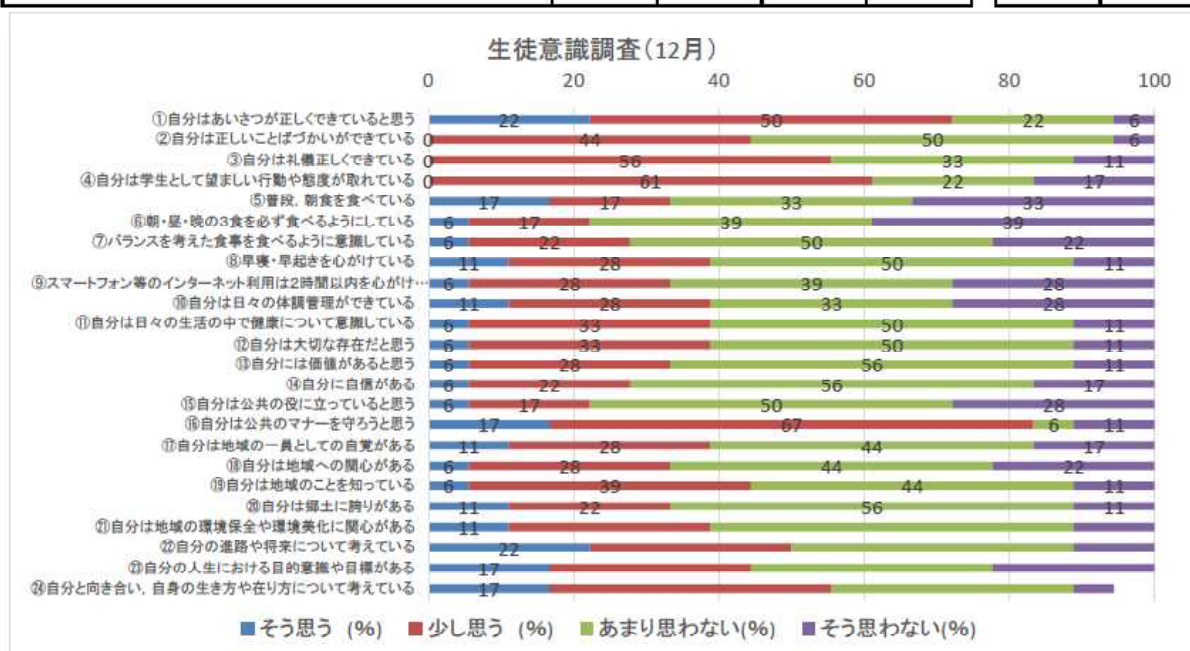
	そう思う (%)	少し思う (%)	あまり思わない (%)	そう思わない (%)	肯定的評価	否定的評価
①自分はあいさつが正しくできていると思う	22	56	17	6	78	22
②自分は正しいことばづかいができている	11	17	56	17	28	72
③自分は礼儀正しくできている	0	44	50	6	44	56
④自分は学生として望ましい行動や態度が取れている	6	39	39	17	44	56
⑤普段、朝食を食べている	28	17	22	33	44	56
⑥朝・昼・晩の3食を必ず食べるようにしている	22	22	28	28	44	56
⑦バランスを考えた食事を食べるように意識している	17	33	33	17	50	50
⑧早寝・早起きを心がけている	11	33	39	17	44	56
⑨スマートフォン等のインターネット利用は2時間以内を心がけている	6	11	28	56	17	83
⑩自分は日々の体調管理ができている	11	22	56	11	33	67
⑪自分は日々の生活の中で健康について意識している	0	44	44	11	44	56
⑫自分は大切な存在だと思う	6	39	39	17	44	56
⑬自分には価値があると思う	6	28	44	22	33	67
⑭自分に自信がある	6	28	44	22	33	67
⑮自分は公共の役に立っていると思う	0	28	44	28	28	72
⑯自分は公共のマナーを守ろうと思う	17	61	22	0	78	22
⑰自分は地域の一員としての自覚がある	6	39	39	17	44	56
⑱自分は地域への関心がある	6	44	33	17	50	50
⑲自分は地域のことを知っている	0	50	28	22	50	50
⑳自分は郷土に誇りがある	11	44	33	11	56	44
㉑自分は地域の環境保全や環境美化に関心がある	6	33	44	17	39	61
㉒自分の進路や将来について考えている	17	39	39	6	56	44
㉓自分の人生における目的意識や目標がある	17	33	44	6	50	50
㉔自分と向き合い、自身の生き方や在り方について考えている	11	39	39	11	50	50



平成28年度 生徒意識調査(2学期)の結果

対象:全学年(18名)(男子:10 女子:8)

	そう思う (%)	少し思う (%)	あまり思わない (%)	そう思わない (%)	肯定的評価	否定的評価
①自分はあいさつが正しくできていると思う	22	50	22	6	72	28
②自分は正しいことばづかいができている	0	44	50	6	44	56
③自分は礼儀正しくできている	0	56	33	11	56	44
④自分は学生として望ましい行動や態度が取れている	0	61	22	17	61	39
⑤普段、朝食を食べている	17	17	33	33	33	67
⑥朝・昼・晩の3食を必ず食べるようにしている	6	17	39	39	22	78
⑦バランスを考えた食事を食べるように意識している	6	22	50	22	28	72
⑧早寝・早起きを心がけている	11	28	50	11	39	61
⑨スマートフォン等のインターネット利用は2時間以内を心がけている	6	28	39	28	33	67
⑩自分は日々の体調管理ができている	11	28	33	28	39	61
⑪自分は日々の生活の中で健康について意識している	6	33	50	11	39	61
⑫自分は大切な存在だと思う	6	33	50	11	39	61
⑬自分には価値があると思う	6	28	56	11	33	67
⑭自分に自信がある	6	22	56	17	28	72
⑮自分は公共の役に立っていると思う	6	17	50	28	22	78
⑯自分は公共のマナーを守ろうと思う	17	67	6	11	83	17
⑰自分は地域の一員としての自覚がある	11	28	44	17	39	61
⑱自分は地域への関心がある	6	28	44	22	33	67
⑲自分は地域のことを知っている	6	39	44	11	44	56
⑳自分は郷土に誇りがある	11	22	56	11	33	67
㉑自分は地域の環境保全や環境美化に関心がある	11	28	50	11	39	61
㉒自分の進路や将来について考えている	22	28	39	11	50	50
㉓自分の人生における目的意識や目標がある	17	28	33	22	44	56
㉔自分と向き合い、自身の生き方や在り方について考えている	17	39	33	6	56	39



平成28年度 道徳教育 保護者アンケート						12月16日実施
番号	質 問	全学年人数				全学年 肯定的 評価(%)
		4	3	2	1	
1	お子さんは、高校入学当初と比べて、言葉遣いや礼儀などのコミュニケーション能力が向上してきたと思いますか。	3	8	6	0	65
2	お子さんは、高校入学当初と比べて、基本的な生活習慣が身に付いてきたと思いますか。	2	8	6	1	59
3	お子さんは、高校入学当初と比べて、自信をもって前向きに生活するようになってきたと思いますか。	3	11	3	0	82
4	お子さんは、高校入学当初と比べて、命の大切さを理解し、自他の命を大切にしたいと考えるようになってきたと思いますか。	4	10	3	0	82
5	お子さんは、地域の清掃活動などを行うことにより、高校入学当初と比べて環境保全についての意識が向上してきたと思いますか。	2	10	5	0	71
6	お子さんは、高校入学当初と比べて、自然や生命との関わりについてじっくりと考えるようになってきたと思いますか。	3	8	6	0	65
7	お子さんは、高校入学当初と比べて、郷土に対する理解が深まり、地域との絆を大切にしたいと考えるようになってきたと思いますか。	3	9	5	0	71
8	お子さんは、高校入学当初と比べて、社会の一員としての役割や責任を自覚してきたと思いますか。	4	8	5	0	71
9	お子さんは、高校入学当初と比べて、勤労や奉仕の精神などについてじっくりと考えるようになってきたと思いますか。	3	8	6	0	65
10	お子さんは、高校入学当初と比べて、卒業後の進路選択や将来の目標についてじっくりと考えるようになってきたと思いますか。	4	8	4	1	71

平成28年度 道徳教育 教職員アンケート						12月16日実施
番号	質 問	全人数				全肯定的 評価(%)
		4	3	2	1	
1	生徒は、高校入学当初と比べて、言葉遣いや礼儀などのコミュニケーション能力が向上してきたと思いますか。	1	9	0	0	100
2	生徒は、高校入学当初と比べて、基本的な生活習慣が身に付いてきたと思いますか。	1	8	0	1	90
3	生徒は、高校入学当初と比べて、自信をもって前向きに生活するようになってきたと思いますか。	2	7	0	0	100
4	生徒は、高校入学当初と比べて、命の大切さを理解し、自他の命を大切にしたいと考えるようになってきたと思いますか。	3	7	0	0	100
5	生徒は、地域の清掃活動などを行うことにより、高校入学当初と比べて環境保全についての意識が向上してきたと思いますか。	4	6	0	0	100
6	生徒は、高校入学当初と比べて、自然や生命との関わりについてじっくりと考えるようになってきたと思いますか。	1	8	1	0	90
7	生徒は、高校入学当初と比べて、郷土に対する理解が深まり、地域との絆を大切にしたいと考えるようになってきたと思いますか。	4	6	0	0	100
8	生徒は、高校入学当初と比べて、社会の一員としての役割や責任を自覚してきたと思いますか。	3	7	0	0	100
9	生徒は、高校入学当初と比べて、勤労や奉仕の精神などについてじっくりと考えるようになってきたと思いますか。	2	8	0	0	100
10	生徒は、高校入学当初と比べて、卒業後の進路選択や将来の目標についてじっくりと考えるようになってきたと思いますか。	2	8	0	0	100

生徒意識調査は、項目①～④が「人として必要とされる資質や態度」について、項目⑤～⑪が「望ましい生活習慣や健康管理」について、項目⑫～⑭が「自己肯定感や自尊感情」について、項目⑮～⑳が「公共の精神と地域社会への関心や態度」について、項目㉑～㉒が「自己の将来や人生の生き方・在り方」について、生徒の実態を把握するために実施した。この調査結果を踏まえた、本校道德教育の取組の成果について述べる。

◇項目①～④「人として必要とされる資質や態度」について

4つの項目において、昨年度は肯定的回答の割合が高かったが、今年度も7月の調査時点で肯定的回答の割合が高く、1月の調査においても数値は向上していた。特にあいさつや礼儀に関する項目で肯定的回答の割合が高く、項目①「あいさつが正しくできていると思う」、項目③「自分は礼儀正しくできている」とともに昨年度から6割から7割近い数値を維持していた。また、項目④「自分は学生として望ましい行動や態度がとれている」に肯定的回答を示した生徒が、今年度は61%であり、昨年度より数値が上回っていることから、日々の指導の成果を実感できた。



◇項目⑤～⑪「望ましい生活習慣や健康管理」について

昨年度から引き続いている、項目⑩「自分は日々の体調管理ができている」、項目⑪「自分は日々の生活の中で健康について意識している」は、今年度は残念ながら数値が下回り、生徒の健康に対する意識の低さが伺える。今年度、基本的生活習慣おける項目を細分化した、項目⑤～⑨の5つすべてにおいて否定的回答の割合が高く、食事や睡眠、インターネット利用などに関係する基本的生活習慣の改善が不十分であった。自己の健康に関することは、自己肯定感や自尊感情とも関係があるため、養護助教諭を中心に、教職員の連携を図りながら今後も経過を見ていきたい。



◇項目⑫～⑭「自己肯定感や自尊感情」について

すべての項目で、昨年度同様、否定的回答の割合が高く、自己肯定感や自尊感情に関することは、過去に経験した心の傷なども影響しているため、顕著な改善には苦慮している。今年度も、3つの項目とも7月と1月との調査に大きな改善が見受けられず、残念ながら数値を大幅に向上させることができなかった。依然生徒の自尊感情等は乏しい状況であるが、今年度は、取組内容において人と関わる活動を増やし、他者から認められる機会が増えたため、生徒たちの活動に取り組む態度や表情を見てみると、数値では確認できないポジティブな心の変化を感じ取ることができた。



◇項目⑮～㉒「公共の精神と地域社会への関心や態度」について

昨年度との比較では、ほとんどの項目において評価数値に大きな変化が見られなかったが、昨年度と同様の評価を得られた。特に、項目⑯「公共のマナーを守ろうと思う」に肯定的回答を示した生徒が、12月の時点で83%と今回の調査項目の中でも最も高い数値であり、生徒たちの社会的なマナーの意識が高く、日頃の指導を通して、生徒に社会規範や社会的モラルの育成ができていると捉える。また、生徒たちの地域社会への関心が低い中で、環境美化活



動や夜間防犯パトロールなどの「池定・地域まもり隊」の地域貢献活動を通して、項目⑰「自分は地域の一員としての自覚がある」の肯定的評価を高めることができた。

◇項目⑳～㉔「自己の将来や人生の生き方・在り方」について

昨年度は、3つの項目とも肯定的回答の割合が高く、評価数値も向上したが、今年度は残念ながら、昨年度の数値を下回った。今年度、項目㉔「自分の進路や将来について考えている」では、56 %と比較的肯定的な評価は高く、本校は仕事やアルバイトに従事している生徒が全体の6割超いることから、自己の将来への関心が高いと考える。また、項目㉔「自分と向き合い、自身の生き方や在り方について考えている」については、12月の調査で肯定的回答を示した生徒が56 %で、体験的学習や講演会などを通して、様々な人と出会い、多様な見方や考え方に触れ、自らの在り方や生き方について考察できたと感じている。



以上のことから、全体的な評価としては、地域社会や地域の人々との関わりに重点を置き、目的意識を持って実施したことで、昨年度や生徒個々の数値に差異はあるものの、一定の道徳心の醸成が図られたと確信しており、本校道徳教育の成果が得られたと考える。

5 今後の課題



平成28年度道徳教育実践研究事業に関する本校の取組の成果については、これまで報告してきたが、課題も残されており、生徒意識調査の結果も示唆に富む内容であった。

「人として必要とされる資質や態度」に関する内容については、生徒たちの肯定的回答の割合は高く、今年度は教職員からの評価も高かった。しかし、保護者の評価数値は65 %であり、身に付けたコミュニケーション能力などが家庭で生かされていないと捉える。今後は、教職員間の共通理解のもと、家庭や地域の視点から示唆を与える指導が必要であると考えている。

「望ましい生活習慣や健康管理」に関する内容については、保護者の評価数値が59 %と低く、家庭でも子どもたちの基本的な生活習慣の改善には頭を悩ませているようである。そのため今後も、養護助教諭を中心に望ましい生活習慣に関するガイダンスを強化し、保護者への情報提供など、家庭との連携を密に図りながら改善指導に努めたい。

「自己肯定感や自尊感情」に関する内容については、生徒たちのこれまでの境遇に起因する、人に対する信頼感の欠如や、ネガティブな経験による自信の喪失などもあり、自己肯定感や自尊感情を短期間で醸成するのは大変困難であると思われる。しかし、生徒が今後の生活や将来の人生をよりよく営むうえで、心の成長は必要不可欠である。一概に評価



しきれないとはいえ、今年度も自己肯定感や自尊感情の評価項目は、大きく改善することができず、この結果を真摯に受け止めなければならぬ。しかし、これらに関する項目は、保護者や教職員アンケートにおいては、肯定的評価が高いという結果が出ており、生徒たちの自己評価と他者評価との違いは見受けられた。そのため、今後の教育活動において、異校種などとの連携も検討し、多様な発達段階の者同士が触れ合う中で、コミュニティにおける自己の役



割や責任を実感し、自己の存在意義にも気づかせ、教職員がしっかりと生徒を見つめ、励まし、賞賛しながら、数値だけでは推し量ることができない、自尊感情や自己肯定感の醸成につなげる。生徒たちにはこれからも地域社会や人との関わりを重視した教育活動を進め、生徒に寄り添いながら粘り強く指導や支援をしていきたい。

「公共の精神と地域社会への関心や態度」に関する内容については、保護者アンケートで7割前後の肯定的評価であったが、生徒の個人評価では、今年度の道徳教育の目標は達成したとは言いがたい結果になった。そのため、今後も生徒や保護者にニーズに対応しながら、地域社会が求める人材育成ができるように、地域社会から評価が得られるような仕組みを構築するとともに、地域社会との接点を大切し、地域に関する学習や地域の方と触れ合える体験的な活動を継続・発展させ、リーダーシップを発揮し、地域社会で活躍できる生徒を育てていきたい。

「自己の将来や人生の生き方・在り方」に関する内容について、昨年度の生徒意識調査の結果では、肯定的回答の割合が高かったが、今年度の調査では、それを下回る結果となった。今年度の卒業予定者が例年よりも少ないことが原因の一つとして考えられるが、近年の卒業生の就職後の離職率が高いことを踏まえると、より早い段階で自己の進路や人生について考える機会を提供しなければならいと考え。生徒の入学当初から、進路指導やキャリア教育と関連づけた指導を行い、社会で必要とされるバイタリティ溢れる人材を、道徳教育を通して育てていきたい。



道徳教育は人間形成の根幹に関わるものであり、地域や家庭との連携を密にし、社会全体で教育活動を進めていくことが重要であると捉えている。そのため、教師自ら地域に足を運び、保護者や地域の方とも積極的に関わり、今まで以上に三者の協力・協働関係を強める。その環境の中で、他者との協働的な活動を通して、相互作用を及ぼし、より良い道徳心や道徳的実践力を育むことが理想であると考え。その実現には、日々の教育実践に尽力するだけでなく、生徒の実態に応じた多角的な評価による教育活動の改善が重要であると捉えている。今年度は、教職員と保護者のアンケートも実施したが、教職員は日頃の学校生活において、生徒たちの言動を身近に感じ、家庭では見えない生徒の成長した姿を見ていることもあり、両者の評価の違いが出ているとも考えられる。保護者の評価は真摯に受け止め、本校の教育活動を再見するとともに、子どもたちの学校での様子や言動の変化なども適宜伝えていかなければならないと感じた。現在でも、学校評価などを通して、PDCAサイクルを用いた教育活動の改善に日々取り組んでおり、今年度も、道徳教育に関する項目を強調し、新たな項目を加えたが、現代における道徳教育の重要性を踏まえ、今後さらに評価の改善を図りたい。さらに、生徒の道徳心の醸成には、生徒自身が活動における言動を振り返りながら自他と向き合うことが大切であると考え、年々教育活動が過密になる傾向があり、フィードバックの不十分さも感じる。今後、教育活動の精選も視野に入れた取組の改善を図り、振り返りシートなどを活用しながら、反省したことを次に生かせるよう工夫したい。また、今年度は、道徳教育に対する理解を深めるため、11月に香川県立三本松高等学校教頭の佐立明氏をお招きし、道徳教育職員研修を行い、あいさつや服装・頭髪指導など、日々の生徒指導を中心として実際に前任校で行っていた道徳教育についての講話を聞いたが、今後も教職員が自己研鑽に励み、道徳教育に関する研修も充実させ、より質の高い教育を生徒に提供できるように努力するなど、今後もよりよい道徳教育の発展に尽力し、高い道徳心や道徳的実践力を備えた生徒を育てていきたい。